

(3) 本研究の実践化

本研究の実践化のために、「道徳的価値を意識した学習過程の作成」と『I あい活動』の工夫と活用に重点を置きます。「I あい活動」とは、学習過程の中に位置付けたショート時間（帰りの会、朝の会）において、自他の活動のよさを見付け合う活動のことです。

ア 道徳的価値を意識した学習過程の作成

学習過程の作成のために

「学校行事」は、「学級活動」「児童会活動」「クラブ」と並ぶ、特別活動の内容の一つです。学校行事の目標は、学習指導要領に下記のように示されています。

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 平成20年8月 p.89より引用

この学校行事の目標には、人間関係を築くための「相互理解」や「思いやり」、「友情」、協力してよりよい学校生活を築こうとする「よりよい学校生活、集団生活の充実」など、多くの道徳的価値が含まれています。同じように、学校行事一つ一つのねらいにも、道徳的価値が含まれていると考えます。例えば、地域の方々とふれ合う学校行事では「感謝」や「親切・思いやり」など、交通安全教室では「規則の尊重」などです。この道徳的価値を意識し、学校行事の事前、事後を充実させ、学習過程を工夫します。しかし、授業時数に限りがあることから、対象とする学校行事を重点化したり、効率的な自己目標の決定や振り返りを工夫したりすることも必要になります。また、児童の実態に合わせて、自覚を促す道徳的価値を意図的に仕組むことも必要だと考えます。これらのことに気を付けながら、生活上の課題を見いだす過程で児童に道徳的価値について考える機会をもったり、自他の言動に含まれる道徳的価値に気付くように仕組んだりします。

学校行事を中心とした学習過程において育てたい資質・能力を見通し、育てたい児童の姿をイメージし、児童に自覚を促す道徳的価値を意識しつつ、学習過程を作成していきます。

学習過程を作成する際に整理しておきたいことは、下記のとおりです。次頁図1に示したイメージ図において、学習過程を整理しておきます。

学習過程のイメージ図を作成する手順

- ① 対象とする学校行事を決めます。
- ② 学校行事のねらいや特徴を整理します。
- ③ 学校行事に関わる学級の課題を書き出します。
- ④ 学校行事のねらいと学級の課題を踏まえて、学校行事を中心とした学習過程で「育てたい姿」をイメージします。
- ⑤ 「特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点」で整理し、本学習過程で育てたい資質・能力を確認します。
- ⑥ 指導する上で教師が意識し、児童にも意識させたい道徳的価値を決めます。
- ⑦ 事前、事後の学習過程を考えます。

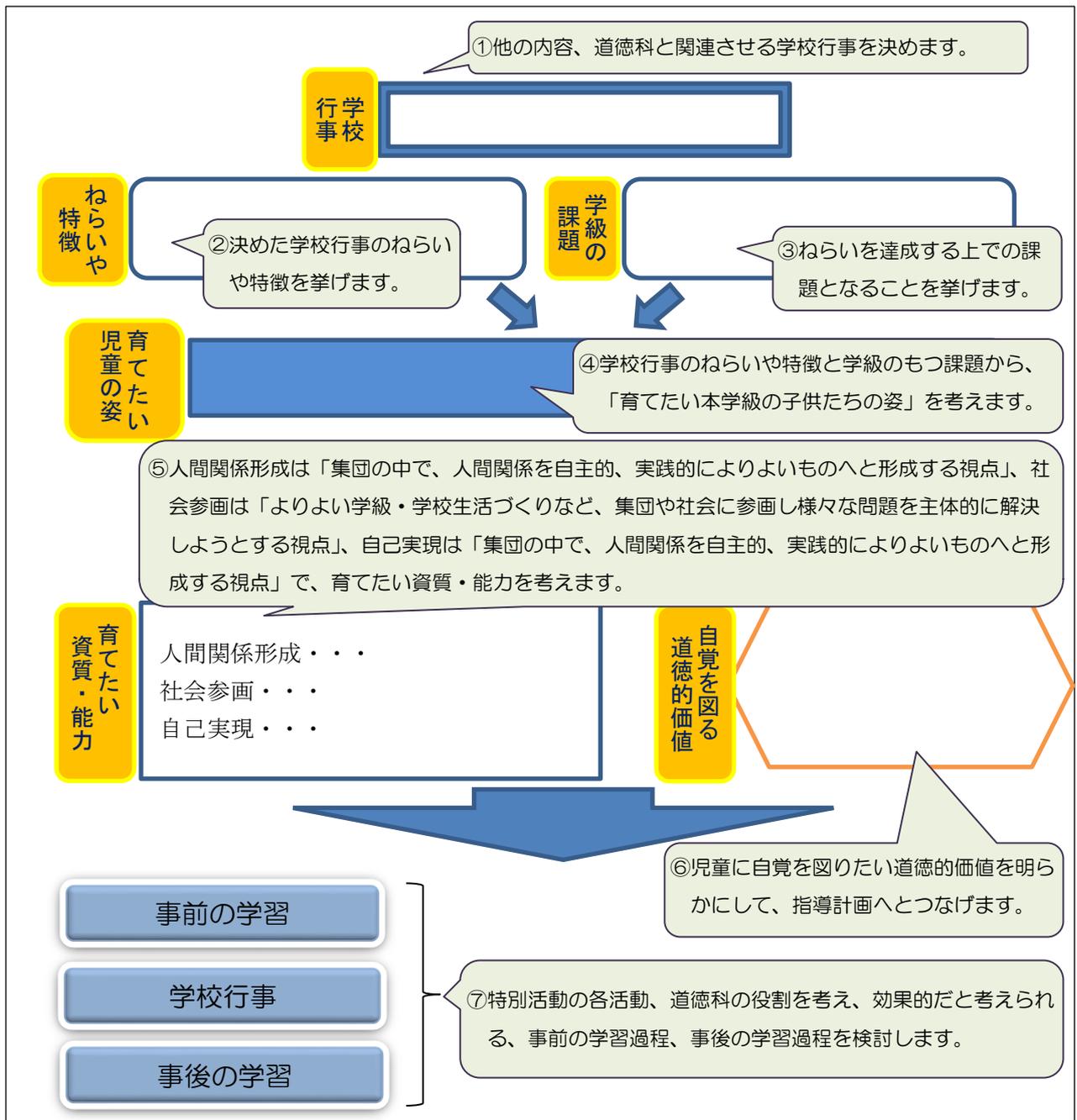


図1 道徳性の育成を意識した学習過程づくり

学校行事に各活動、道徳科の特質を生かすために

特別活動は、他の教育活動とは異なり、全校又は学年の全児童が集団として活動することから、全教師が関わって年間計画を作成し、全教師が組織的に指導に当たることとなります。しかし、学校行事の一部を児童の自治的な実践の場として保障すれば、学級活動(1)との関連を図り、話し合い活動において集団決定したことを実践させることができます。また、学校行事の事前指導としての学級活動(2)、「学校行事への協力」としての児童会活動など、内容相互の関連を効果的に図ることで、一人一人が目標をもって主体的に参加する学校行事を行うことができます。

道徳科については、学校行事で育てたい道徳的価値を明らかにし、その内容項目についての道徳科の授業を学校行事前に意図的に行うことで、学校行事と道徳科の往還的な学習を仕組むことができると考えます。また、学校行事で児童の感想を資料として道徳科の授業を行うことで、自他の成長に気づき、自己の生き方を見つめる効果を高めることができると考えます。下の図2は、学校行事と、各活動や道徳科との関連についてまとめたものです。

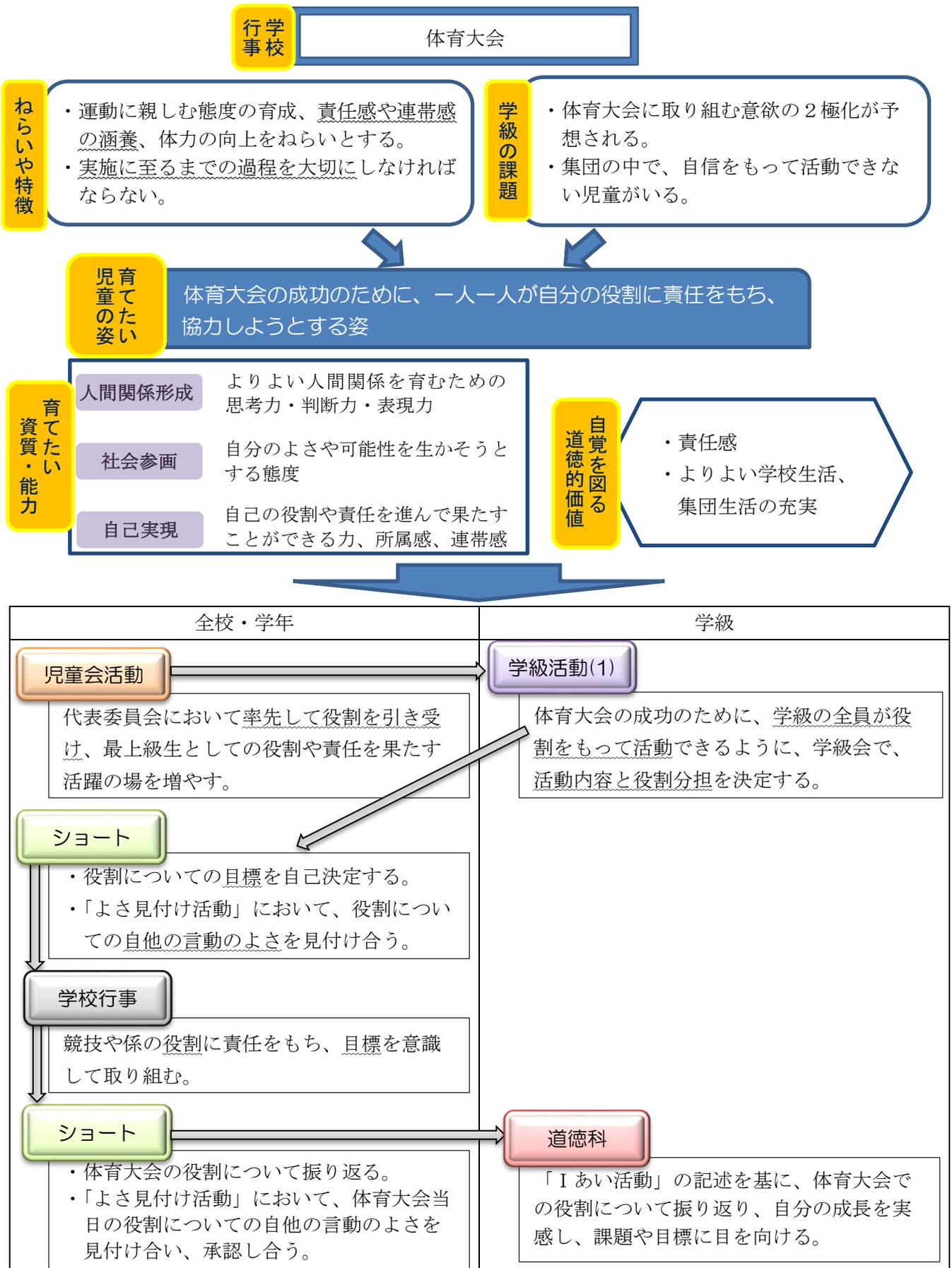


図2 学校行事と、各活動や道徳科との関連

特別活動の各活動、道徳科の特性を生かしながら、学校行事の活動過程を充実させることで、児童がねらいを明確にもって、自他の実践活動や体験活動を行い、自己の成長に気づくことができる振り返りにしていきます。

学習過程の作成例

次は、本研究の検証授業として取り組んだ6年生の例です。



イ 「よさ見つけ活動」(「I あい活動」)の工夫と活用

「I あい活動」とは

本研究では、自他の言動のよさを見付け合い、付箋に書いて、紹介したり渡したりする活動を「I あい活動」と名付けました。図3は、4年生の実践において「I あい活動」のねらいを児童に説明する際に使ったプレゼンスライドです。「I」は「私が(は)」という主語を意味し、自分がどう思ったのか自分の言葉で伝えること、「あい」は「認め合い」からとっており、互いのよさを見付け合い認め合う関係をつくることをねらいとしていることを話しました。

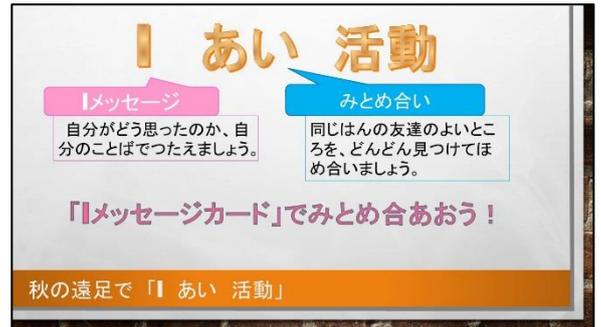


図3 「I あい活動」の説明のプレゼンスライド

よさを書き留める付箋のことを「I メッセージカード」と呼び、友達の言動のよさを見付けて「I メッセージ」を書くことを価値付け、いろいろな友達の言動のよさをいろいろな視点から探し、自分が何を気付きどう感じたのかを書くようにしました。

「I あい活動」を効果的に行うために

「問題の発見・確認」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった一連の実践の過程で、児童が自他の言動のよさを見付け合うことで、よりよい人間関係の形成、よりよい生活の構築へ目を向けられるにしていきたいと考えます。そこで、学習過程の中に、適切な期間、「I あい活動」を取り入れます。特別活動は「望ましい集団活動を通して」という方法原理をもちます。明確な教師の意図や手立てがないと、互いのよさを見付け合う活動でも、効果が出なかったり、逆に児童に悪影響を与えることになったりしかねません。長期間の「よさ見つけ活動」を行う場合、どのような相手に、どのような内容のよさを見付ける方法を取るのか、見通しをもって取り組む必要があると考えます。そこで、どのような配慮が必要で、どのような手立てが有効か検討しながら進めていきました。実践での「よさ見つけ活動」を例に挙げます。

表1 「I あい活動」を行う上で配慮したいこととその手立て

	配慮したいこと	配慮したいことへの手立て 上段：6年生での実践 下段：4年生での実践	
		相手	六年生
○相手を絞ることで具体的な活動や行動のよさを見付けられるようにします。	○誰もがよさを見付けられるように、また、見付けてもらえるようにします。	体育大会に関わる4つの 役割 を通していろいろな人と関われるようにグループピングし、その 役割について実践する過程 でよさを見付け合わせたため、必然的に、学級を超えていろいろな友達のよさを見付けることになりました。 学級会で決めた全員参加のプロジェクトの役割、体育大会を運営するための役割の2つについては、同じ役割の友達のよさは必ず見付ける というルールを決めました。	学級の班で、 遠足の班行動と「バスの中集会」の役割 を担うようにし、遠足当日までは、 班の友達のよさを順番に見付ける ようにしました。遠足後は、相手を広げて、クラスの友達のよさを見付けるようにしましたが、 見付ける相手を男女交代にする、同じ友達には1回しか書かない というルールを決めました。

方法	<p>○友達に見付けたよさを伝えるようにします。</p> <p>○具体的なよさを見付けられるように手立てを取ります。</p>	<p>六年生</p> <p>帰りの会で「Iメッセージ」を書き、学年の廊下に掲示した自分の個人目標カードに、友達に書いた「Iメッセージカード」を貼っていくようにしました。役割ごとに付箋紙の色を変える、相手が隣のクラスの友達の場合はシールを貼るという約束をつくり、どの役割について書いているのかわかるようにしました。児童の発言や「Iメッセージカード」の記述から言動のよさを見付ける観点（「Iあいがね」）をつくり、「Iあいがね」を活動のよさを見付けるヒントとしました。</p>
	<p>四年生</p> <p>帰りの会で「Iメッセージカード」を書き、遠足当日分までは、班の友達に書いた「Iメッセージカード」を書き溜め、遠足翌日に班の代表として、隣の席の友達が渡すようにしました。遠足後は、書いた日に「Iメッセージカード」を渡して、もらった友達は「ありがとうカード」を返すようにしました。学級活動(2)でつくった「ぼかぼかコミュニケーション」を観点とし、行動のよさを見付けるヒントとしました。</p>	

※「配慮したいこと」の○は「配慮したいことへの手立て」に赤文字で、「配慮したいこと」の○は「配慮したいことへの手立て」に青文字で記しています。

「I あい活動」の活用

「I あい活動」で記述した「Iメッセージカード」を帰りの会で紹介し、友達の言動のよさや実践への思いを児童が共感できるように努めました。

また、「Iメッセージカード」の内容を道徳科の資料として使い、言動に含まれる道徳的価値の自覚を深めるとともに、児童が自他の成長に気付けるようにしました。図4は、6年生の検証授業の導入で使用したプレゼンスライドです。児童とともに、「Iメッセージカード」のもつ温かい気持ちになれるという効果を確認し、本時のめあてにつなげました。図5は、4年生の検証授業で使用したワークシートの一部です。「Iメッセージカード」9枚をワークシートに載せ、温かい気持ちになることを確認した上で、どんな「ぼかぼかコミュニケーション」についてのよさ見付けができているのか、また、その「ぼかぼかコミュニケーション」によってどのような気持ちになるのかを考えました。

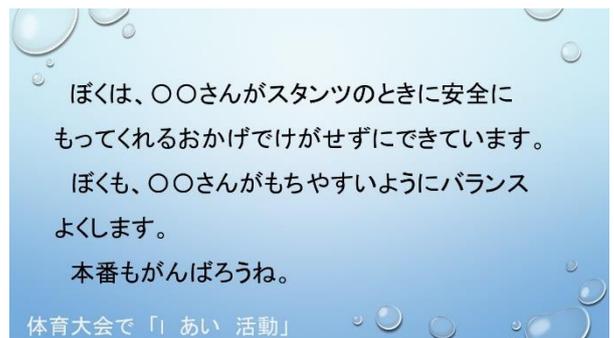


図4 第6年検証授業のプレゼンスライド

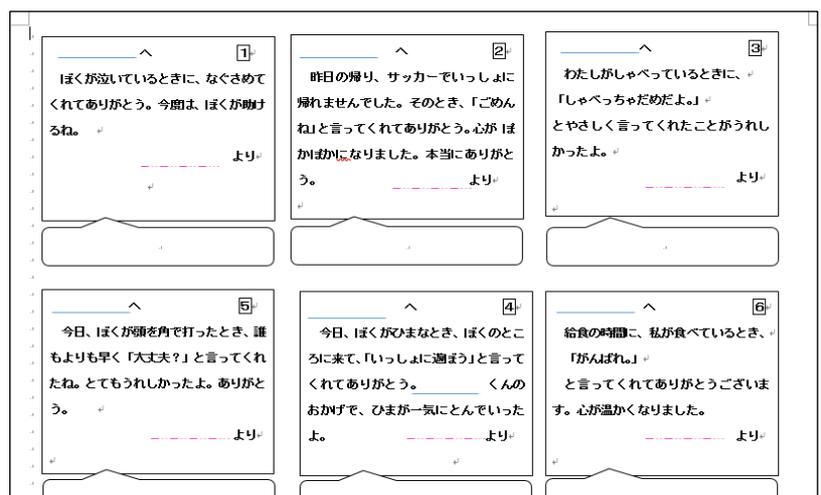


図5 第4学年検証授業のワークシートより

引用文献

・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 平成20年8月 p.89